

港北区オンライン医療相談研究に参加しやすくなりました！ ～港北区の妊婦のみなさん、ぜひご参加ください～

港北区にお住まいで妊娠中の方を対象に、オンラインで専門の医師や助産師に、妊娠中や産後の悩み、お子さんの健康の相談ができる相談サービスまたは妊娠中から産後に役立つ情報を提供しています。この取組は、「港北区オンライン医療相談研究」として、妊娠中の母親の産後うつリスク軽減効果を検証することに役立てられます。

現在、港北区にお住まいで、妊娠中の方ならどなたでも研究にご登録いただけますので、ぜひ、この機会にご参加ください。

注：研究参加登録者全員がオンライン医療相談サービスを利用できるわけではありません。

オンライン医療相談を
利用した方の声



コロナ禍では病院へ行くことが不安でした。こちらでは写真を見ていただいた上で先生に回答していただいたので、本当に安心しました。優しい言葉をかけてくださったのも嬉しかったです。おかげ様で、ストレスなく安心して過ごせそうです。

色々と不安になりやすい妊娠時期に、直接産婦人科の先生に質問ができること、すごく助かります。



対象

現在、横浜市港北区にお住まいで
妊娠中の方 先着 720 名
(出産予定日が 2021 年 10 月 31 日までの方)

研究参加方法

こちら (URL
<https://obstetrics.jp/lp/study/kohoku>
u) から参加登録できます。

研究への参加案内は、これまで港北区こども家庭支援課の窓口のみで行っていましたが、より多くの方が参加できるよう区内の公共施設、地域子育て支援拠点や地域ケアプラザで行う両親教室、親と子のつどいの広場などでも行います。

※本ウェブサイトは、本業務の委託先である株式会社 Kids Public が運営する港北区研究サイトとなります。

研究参加の流れ



研究者 東京大学大学院医学系研究科 保健社会行動学分野 荒川 裕貴 コメント

妊娠中からの切れ目ない支援は、不安を抱える妊婦さんたちと子どもたちの健康のために重要です。
この研究は将来の妊婦さんの支援につながるため、ぜひ妊婦のみなさまにご参加いただければ幸いです。

<次ページあり>

■港北区オンライン医療相談研究について

この事業では、妊娠期から特に不安が強くなりやすい産後4か月までの間に、オンラインで気軽に専門の医師に相談ができるサービス（産婦人科オンライン・小児科オンライン等）※1を提供し、サービス利用による母親の産後うつリスク軽減効果を検証※2します。

横浜市では、新たな公民連携手法である「ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）」※3の導入に向けて検討を進めており、今回、ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）の手法でモデル事業を行います。

※1 産婦人科オンライン・小児科オンライン等

株式会社 Kids Public が提供するオンラインによる遠隔健康医療相談サービス。平日の午後6時～10時にスマートフォンやパソコンから、チャット・音声通話・動画通話のいずれかを通じて産婦人科医・助産師、小児科医に直接相談ができます（10分間の予約制）。診療行為は行わず、一般的な医学的情報の提供、受診勧奨、相談を行います。産後に利用可能な日中の助産師相談（週2日：令和3年2月～）や産前産後の健康情報の配信も行います。

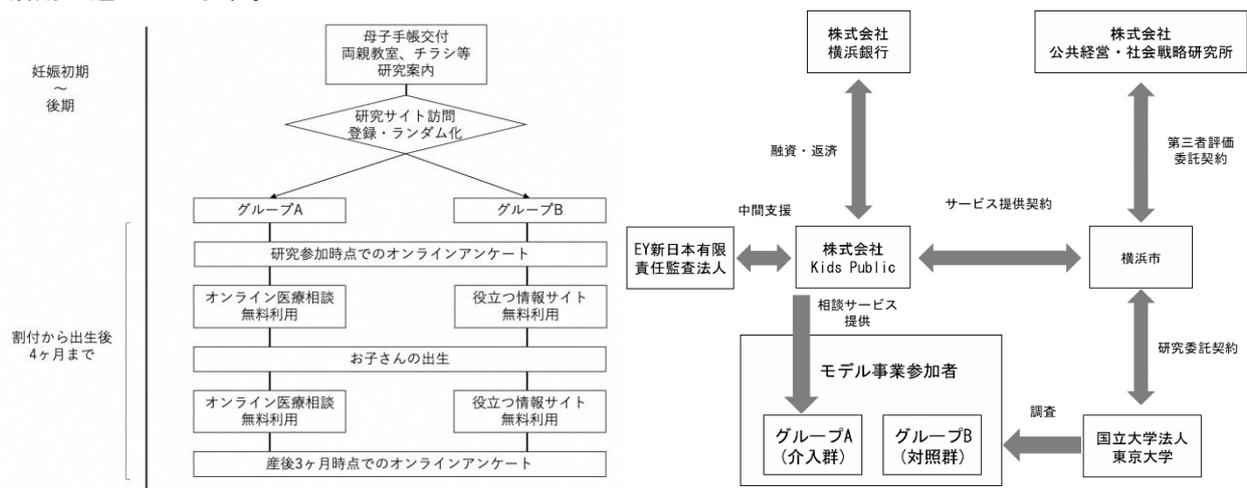
※2 母親の産後うつのリスク軽減効果を検証

参加登録をした方が産後3か月を迎える時点で、産後うつのスクリーニングに用いられるエジンバラ産後うつ質問票（EPDS）により、グループAとグループBのスコアを比較し、効果を検証します。株式会社 Kids Public（代表取締役社長：橋本 直也）、EY 新日本有限責任監査法人（理事長：片倉 正美）、株式会社 横浜銀行（代表取締役頭取：大矢 恭好）、株式会社 公共経営・社会戦略研究所（代表取締役社長：塚本 一郎）及び、国立大学法人東京大学（総長：五神真）と協定を締結し、事業を行っています。

本調査研究の部分については、東京大学大学院医学系研究科の保健社会行動学分野が担当しています。

※3 ソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）

新しい官民連携の仕組みで、民間の資金やノウハウを活用して社会課題の解決が必要な事業（サービス）を実施し、行政は成果が達成された場合に事業費や報酬を支払う、成果連動型民間委託契約の手法です。2010年にイギリスで初めてソーシャル・インパクト・ボンド（SIB）が実施されて以降、世界各国で活用が進んでいます。



お問合せ先

政策局共創推進課長	小池 道子	Tel 045-671-4394
港北区区政推進課長	田中 郁雄	Tel 045-540-2220